身体障害者診断書・意見書(免疫機能障害用)

総括表

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏　名 | | | 明治  大正  昭和  平成 | | 年　　月　　日生  　　（　　　歳） | 男・女 |
| 住　所 | | | | | | |
| ① | | 障害名（部位を明記） | | | | |
| ② | 原因となった  疾病・外傷名 | | | 交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、自然災害、疾病、先天性、その他（　　　） | | |
| ③ | | 疾病・外傷発生年月日　　　　　　　年　　月　　日　・場　所 | | | | |
| ④ | | 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）  障害固定又は障害確定（推定）　　　年　　月　　日 | | | | |
| ⑤ | | 総合所見  〔 将来再認定　　要 ・ 不要〕  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〔 再認定の時期 　　 年　　月〕 | | | | |
| ⑥ | | その他参考となる合併症状 | | | | |
| 上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。  年　　月　　日  病院又は診療所の名称  所　　　在　　　　地  診療担当科名　　　　　　　　　科　　医師氏名　　　　　　　　　　　　印 | | | | | | |
| 身体障害者福祉法第15条第3項の意見［障害程度等級についても参考意見を記入］  　障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に  ・該当する　　　（　　　　　　級相当）  ・該当しない | | | | | | |
| 注 １　障害名には現在起っている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能　　　障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。  ２　歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見　　書」（別様式）を添付してください。  ３　障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分について、お　問い合わせする場合があります。 | | | | | | |

ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の状態及び所見（13歳未満用）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １　ＨＩＶ感染確認日及びその確認方法  ＨＩＶ感染を確認した日　　　　　　年　　　月　　　日  小児のHIV感染は、原則として以下の(１)及び(２)の検査により確認される。(２)については、いずれか１つの検査による確認が必要である。ただし、周産期に母親がHIVに感染していたと考えられる検査時に生後18月未満の小児については、以下の(１)の検査に加えて、(２)のうち「HIV病原検査の結果」又は(３)の検査による確認が必要である。   1. ＨＩＶの抗体スクリーニング検査法の結果  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 区　　　　　分 | 検　　査　　法 | 検　　　査　　　日 | 検査結果 | | 判定結果 |  | 年　　月　　日 | 陽性・陰性 |   注　酵素抗体法（ELISA）、粒子凝集法（PA）、免疫クロマトグラフィー法（IC）等のうち  １つを行うこと。   1. 抗体確認検査又はＨＩＶ病原検査の結果  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 区　　　　　分 | 検　　査　　法 | 検　　　査　　　日 | 検査結果 | | 抗体確認検査の結果 |  | 年　　月　　日 | 陽性・陰性 | | ＨＩＶ病原検査の結果 |  | 年　　月　　日 | 陽性・陰性 |   注１　「抗体確認検査」とは、Western Blot法、蛍光抗体法（ＩＦＡ）等の検査をいう。  ２　「ＨＩＶ病原検査」とは、ＨＩＶ抗原検査、ウイルス分離、ＰＣＲ法等の検査をいう。   1. 免疫学的検査所見  |  |  | | --- | --- | | 検　　　　　査　　　　　日 | 年　　　　月　　　　日 | | IgG | ㎎/㎗ |  |  |  | | --- | --- | | 検　　　　　査　　　　　日 | 年　　　　月　　　　日 | | 全リンパ球数（①） | /μ ℓ | | ＣＤ４陽性Ｔリンパ球数（②） | /μ ℓ | | 全リンパ球数に対するＣＤ４陽性  Ｔリンパ球数の割合（〔②〕／〔①〕） | ％ | | ＣＤ８陽性Ｔリンパ球数（③） | /μ ℓ | | ＣＤ４／ＣＤ８比（〔②〕／〔③〕） |  |   ２　障害の状況  (１)　免疫学的分類   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 区　　　　　　　　分 | 検　査　値 | 免　疫　学　的　分　類 | | ＣＤ４陽性Ｔリンパ球数 | /μ ℓ | 重度低下・中等度低下・正常 | | 全リンパ球数に対するＣＤ４陽性Ｔリンパ球数の割合 | ％ | 重度低下・中等度低下・正常 |   注　「免疫学的分類」欄では、「身体障害認定基準」６ヒト免疫不全ウイルスによる免疫  の機能障害（２）のイの（イ）による程度に該当するものを○で囲むこと。 |
| (２)　臨床症状  以下の臨床症状の有無（既往を含む。）について該当するものを○で囲むこと。  ア　重度の症状  　指標疾患がみられ、エイズと診断される小児の場合は、次に記載すること。   |  |  | | --- | --- | | 指標疾患とその診断根拠 |  | |  |  |   注　「指標疾患」とは、「サーベイランスのためのＨＩＶ感染症／ＡＩＤＳ診断基準」（厚生省エイズ動向委員会、1999）に規定するものをいう。  次の臨床症状の有無（既往を含む。）について該当する方を〇で囲むこと。  イ　中等度の症状   |  |  | | --- | --- | | 臨　　　　　床　　　　　症　　　　　状 | 症状の有無 | | 30日以上続く好中球減少症（＜1,000/μ ℓ） | 有 ・ 無 | | 30日以上続く貧血（＜Ｈb８ｇ/*ｄι*　） | 有 ・ 無 | | 30日以上続く血小板減少症（＜100,000/μ ℓ） | 有 ・ 無 | | １月以上続く発熱 | 有 ・ 無 | | 反復性又は慢性の下痢 | 有 ・ 無 | | 生後１月以前に発症したサイトメガロウイルス感染 | 有 ・ 無 | | 生後１月以前に発症した単純ヘルペスウイルス気管支炎、肺炎  又は食道炎 | 有 ・ 無 | | 生後１月以前に発症したトキソプラズマ症 | 有 ・ 無 | | ６月以上の小児に２月以上続く口腔咽頭カンジダ症 | 有 ・ 無 | | 反復性単純ヘルペスウイルス口内炎（１年以内に２回以上） | 有 ・ 無 | | ２回以上又は２つの皮膚節以上の帯状疱疹 | 有 ・ 無 | | 細菌性の髄膜炎、肺炎又は敗血症 | 有 ・ 無 | | ノカルジア症 | 有 ・ 無 | | 播種性水痘 | 有 ・ 無 | | 肝炎 | 有 ・ 無 | | 心筋症 | 有 ・ 無 | | 平滑筋肉腫 | 有 ・ 無 | | ＨＩＶ腎症 | 有 ・ 無 | | 臨床症状の該当数〔　　　　　個〕……………………………………………① | |   注　「臨床症状の該当数」の欄には、「有」を○で囲んだ合計数を記載すること。 |
| ウ　軽度の症状   |  |  | | --- | --- | | 臨床症状 | 症状の有無 | | リンパ節腫脹〔〕 | 有 ・ 無 | | 肝腫大 | 有 ・ 無 | | 脾腫大 | 有 ・ 無 | | 皮膚炎 | 有 ・ 無 | | 耳下腺炎 | 有 ・ 無 | | 反復性又は持続性の上気道感染 | 有 ・ 無 | | 反復性又は持続性の副鼻腔炎 | 有 ・ 無 | | 反復性又は持続性の中耳炎 | 有 ・ 無 | | 臨床症状の該当数〔　　　　　個〕……………………………………………② | |   注　「臨床症状の該当数」の欄には、「有」を○で囲んだ合計数を記載すること。 |